道學先生の旅

戸川秋骨

青空文庫

若い學生――斷つて置くが、男生女生兩方の學生である――を引率してといふ處だが、むしろ若い學生達に引率されての旅であつた。事實N夫人と私とは晝の辨當を用意して來なかつたので、學生連中の携帶したものからその何割づつかを分けて貰つて、やうやくそれに有りついたといふ事實をもつても解る。山中の一停車場で上りの汽車と竝んで停車したら、丁度その上りの車中に若い女學生の修學旅行らしいのが居て、此方を見て、微笑をしては、互に何か言ひ合つて居る。此方の連中も同樣である。竝んでの停車は僅かに二三分時で互に發車したが、その時先方は笑つて輕く會釋して行つた。此方の連中も同樣にした。私はそれが非常に嬉しかつた。この旅程の中の壓卷だと思つた。事實はそれほどの事でなかつたかも知れないが、私はステイヴンスンの旅行記にある一節を思ひ出したからである。一寸その個處を引用して見る。

「オルニイの若い美人達は私達の出立の際に來て居た。私達は歡呼された、若い男女は岸の土堤の上を私共について走つて來た。私達は燕のやうに河を下つて行つた。娘達は裾をからげ、素足を見せ、息を切らして走つて來た。最後までついて來たのは三人の美人とその他二人であつた。が、それ等も弱つた時、先頭に進んで居た三人の内の一人が、木の切り株の上にのつて、船の私達に向つて、自分の手をキスして送つた。デイヤナの神と雖も、――むしろヴイナスらしい處の方が多くはあつたが――こんな優しい素振りを、これほど優しくして見せる事は出來なかつたであらう。その美人は言つた、「また歸つて入らつしやいネ」と、すると一同も聲を揃へて同じ事を言つた、オルニイのまはりの小丘もみな「歸つて入らつしやいネ」といふ言葉を反響した。併し河は目ばたきをする間に角を曲つてしまつた。そして私達はただ緑の樹木と走る水と共にあるのみであつた。

「また歸つて入らつしやいネ」とや、若き婦人達よ、人の世の早瀬には歸つて來ることはない。

「あき人は船乘の星にぬかづき
　農夫は太陽に依つて季節を知る」

吾れ等はみな自分の懷中時計を、運命の時計に依つて定めなければならぬ。勢猛く進む瀬は、一片の藁のやうに、人をその空想と共に伴ひ去り、時間と空間との内に疾く走り行く。人の世の瀬には、オアズのこの曲折して行く河のやうに、數多の曲線があり、樂しい田園の内にさすらひまた戻つて來る。而もよく考へて見れば決して戻つて來る事はない。よし流れは同じ時刻に、牧場の同じ場所に再び來るとするも、前とその時との間には大きな變りがある。數多の細流は流れ込んだであらう。數多の蒸發は太陽の方に登つた。そして場所は同じとしても、それは同じオアズの流れではあるまい。左ればオルニイの美人達よ、私の一生の、さすらふ宿命は、再び私を導いて、あなた方が河の邊りで死の呼び笛を待て居る處に歸つて來たとしても、その時町を歩む私はもとの私ではあるまい、そしてその時の夫人となつて居る人、母となつて居る人も、果してあなた方であるだらうか。」

私共は大月驛から自動車で目指す河口湖畔へ向つた。自動車は猛烈な、亂暴な奴で、拋り出されさうである。顚覆しさうでもある。一臺はパンクした。私達の乘つて居るのは、ガソリンがなくなつて運轉不能になつた。同乘したN夫人はまだ日本の間に合せの文化に

なれない人だから、定めし驚いた事であらうと察しられる。併し左に右に、また正面に、いつも行手にあたつて、富士がその堂々たる姿を見せて居た事は、私共に取つてさへ快い事であつたから、此外來の方には興のない事でもなかつたらう。私共は湖畔についた、鹿爪らしくも何々ホテルといふ名の家についた。うしろは富士、前には湖畔の山々、目の下には湖水と鎔岩、素より快い天地である。話は東西の旅の事、風景の事に及んだ。N夫人の居られるので、イギリスの湖水地方の風景と同じだと云つて、ダアエント・ヲオタアを見物した曾遊の話をした。N夫人もグラスミヤや、ライダルの話をした。やがてN氏も後れて來著し、話はいよいよイギリスの風景の事ばかりになつた。私は嘗て沙翁の芝居見物のために、二年間イギリスに留學を命ずなんて、辭令をくれる特別な學校はないものかナア、と嘆息した事もあつたが、今又イギリス湖水地方、特にヰンダアミヤ附近、ダアエント、グラスミヤ等に遊んで來る事を命ず、なんていふやうな命令を出してくれる、學校でも、人物でもほしくなつた。私は學問なんか嫌ひだ、またそんな事は柄にもない事だ、だがトポグラフイ（風土記）はかなり好きだ。湖水地方の案内も記事も畫も少しは見て居る。併し古い言葉だが百聞一見に如かず。實景はまた格別であらうが、殘念ながら諸君の話を羨ましさうに聞いて居るのみであつた。

一泊の後翌日は西湖へ船で行つた。この邊は私一個としては曾遊の地で、この河口湖の横斷も嘗て試みた處であるが、恁ういふ靜かな渡し船は幾度くりかへしても快いものだ。特に今は新緑の季で山や森の緑がそれぞれの色を競つて所謂滴るやうである。對岸に近づくとその岸邊から山の方へかけて、何とも知らぬ柔らかさうな新芽を豐かにふいた、遠くから見ると柳かとも思はれる樣な樹が澤山に立ち竝んで居る。葉の色はややうこんにも近いほどで、いかにも若々しさを見せて居る。船から上つてよくよく見れば、それは柿の木であつた。柿、柿は枝ぶりも良い、その枯枝に烏のとまつたのは俳人の詠に殘された位である。枝ぶりも良い、が葉ぶりも惡くなく、その果實の味は言ふまでもないとして、これもまた私共特有の誇るに足るべき樹であらうか。

船から上つて坂道を行くと、この僻地にも小學校はある。折から放課の時刻であつたか、大勢の子供達は、私達異樣な連中の大勢來たのを見て、ワイワイとはやして居る。見ると中には裸體で居るのも少なからずあるのに驚いたが、またそれが特にうれしかつた。良い意味の禮節はなくなつて、儀禮と言へば、惡い方にのみ取られて居る都には見られない質朴さである。これこそ眞に赤裸々そのものである。春になれば自然は生き返る、寒い間の潛勢力を一時に發揮してかかる。草木の新芽をふき出す力の恐ろしさ、堅い石地でも寸土でも、その生を與へる力のあるには驚かされる。今見る滿山の緑はみなこの生の力である。飜つて人間を見ればこの赤裸々の無數の兒童、この山中の僻地の家の數さへ數へつくされる程なる中に、何百と算するこの兒童の群つて居るのも、これまた生の力ではあるまいか。私は今更ら人間と自然との恐ろしい力を感得せざるを得なかつた。アア恁うモラルを説くのは私の歳の所爲だらうか。

私は東京を踏み出すと、その第一には必らず頭を痛める癖があるが、この度は今日になつてそれが始まつた、湖上で頂天から日に照りつけられた爲めであらう。歸りの船は午後一時頃にホテルに著い

た。出立は三時といふので、まだ暫らくの猶豫はある。私はこの時間を暫時休まうと思つて、少しよわつた足を船から鎔岩の上に運ばした。そして振りかへつて見ると元氣な一女學生は、いつ船を出たか、もう新らたにボオトに乘り移つて舟を操縦して居る。私は驚いてしまつた。併し此處にも生の力を見てうれしかつた。内輪に遠慮勝ちなのは日本の女の美には相違ない、否、日本人の美には相違ない、併しその内輪な遠慮勝ちと、力の發動とは決して矛盾はしない。萬一矛盾するものならば、生の力の前には美も消失すべきである。またしても説法の癖が始まつた、「よしなき老の言ひごと、ただゆるしおはしませ」か。

　歸りの自動車は快よかつた。山中湖畔での休息は特によかつた。それから例の籠坂峠を一氣に下つた。七八臺の自動車がかなりの速力で前後して、紆餘曲折した道を下つて飛ばして行くのは、何か活動寫眞にでもありさうな圖で、これは亦一興であつた。汽車は非常に込み合つて居て、坐る席などは絶無であつた。私は學生から譲られて、婆さんが不相應に足をのばして居るその傍に、僅かに腰を下し得た。すると對坐して一人の青年が居た、中學生で、如何にも眞面目な靜かな様子である。何中學の生徒であるかはその説明をまつまでもなく、帽子がそれを語つて居た。青年は一卷の書物をのぞいて居る、見るとそれは藤村君の「破戒」であつた。此も修學旅行の歸りと見えたが、他の多數の學生は、車中で殆んど言語にたへた狼藉を演じて居るのに、その仲間であるこの一人の學生は、ひとり靜かにこんな書物を讀んで居るのが頼母しかつた。私は、貴方はそんな本が好きなんですかと尋ねて見た。すると學生は答へて、私はこの著者が好きですと云ひ、なほその「破戒」を私の方に差し出して、讀んで御覽になりませんかと云つた。私は、有難う、併し私はもう大分以前に讀みましたと云つて、好意を謝し且つことわつた。私は今一度若がへつて、こんな純な心をもつた青年になりたくなつた。そしてこの旅が徹頭徹尾、若い人達に引率されたのである、と云つたやうな心持になつて歸つて來た。

青空文庫情報

底本：「現代日本紀行文学全集　東日本編」ほるぷ出版
1976（昭和51）年8月1日初版発行
入力：林　幸雄
校正：松永正敏
2004年5月1日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

道學先生の旅

戸川秋骨

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/